

圖とは如何なるものかと云ふことの會得と、一般地理學習の際、始終兒童が手にする附圖の成立ちとの理解があれば、つとまることになる。

假りに今此の最低限度の準備を實行するとすれば、何時課するのがよいかと云ふ問題が残つて居る。之を尋常五年の初に課すると、動もすれば教授時間の不足を感ずる一般地理の教授に差支を及ぼすから、尋常四年の第三學期中、毎週一時間宛之にあてがひたいと思ふ。さうする爲には其の時期の終り頃に、通例尋常五年になつてから買入れる附圖を先づ買求めさせる必要があるのは無論のことである。

次に起る問題は、毎週一時間宛の教授時間を、どの教科から譲り受けるかと云ふことである。尋常四年は兒童の負擔が比較的軽いのであるから、無論當局の諒解を経なければならぬが、時間數の多い國語科から割讓するのが適當であると思ふ。若し其の事が出來ない時に

は、科外の仕事としてもよからうと思ふ。

### 五、郷土科に就いて

郷土科の方針は大體二通りに分れる。郷土科は今の文部省督學官棚橋源太郎氏が東京高等師範學校附屬小學校に教鞭を執つて居られた當時に主唱し始められたものであるから、可なり古くから小學校教員には耳馴染のある問題である。時に其の呼聲にも盛衰はあるが一向煮切らない問題として今に至つて居る。之はつまり郷土科が特設の教科目にならないからである。

所て、従來行はれた郷土科の方針を見ると、大體二通りに分たれる。其の一つは郷土其の物を深く研究しようと思ふ方針であり、他の一つは郷土を利用して地理の基礎教授をしようとするのが主になる方針

である。併し世には此の二つを混同して居る人も少くない様である。今假りに郷土科を特設するとし、尙郷土其の物を委しく研究すると言ふ方針を執るとすれば、單に尋常三年とか、四年とかだけに課す可きものではなく、殆んど小學校の各學年を通じて、學年相當の材料を配當す可きものである。かくしても尙其の土地に實際生活を營む上から見て、價值あるものにしようとすれば、小學校卒業後も、補習教育とか青年會の夜學とか云ふ機關の一科目に加へる必要があり、材料によつては獨立生活を營む様になつてから考察せしめる可きものもあらう。東京市の様な大都市では、一生涯を東京市の研究に送つても、理解し得られない部分が多からうと思ふ。併しさう言つて居れば、果てしがないから、若し郷土其の物を研究する方針の郷土科ならば、せめて小學校の各學年を通じて課す可き材料だけを、土地々々で整頓することが必

要になる譯である。併しさう云ふ方針の郷土科が特設せられて後ならば兎に角さもなければ、さう云ふ研究をする篤志家は先づ無いものと見てよからう。

我が國に於ける郷土科の發祥地とも見る可き東京高等師範學校附屬小學校の第一部(男子)のみの單式多級編制尋常科では、當局の承認を受けて、尋常科第四學年に一學年間、毎週一時間宛郷土科を授けることにしてあるが、之は郷土を利用して、地理の基礎教授をするのが主になるもので、前に述べた様な地圖の觀念を授けたり、附圖の見方を練習する外に、兒童をして實地踏査の上、地理上の熟語も授け、其の間に歴史や理科の材料にも觸れて、歴史的趣味や理科的觀察力の養成にも資する方針を執つて居るのである。予が同校に教鞭を執つてゐた時に作つた細目を見ると、大凡その仕組が分かる。

## 郷土科教授細目の一例

### 一 郷土の範圍

學校を中心として一日中に往復し得る地域を郷土とす。

### 二 郷土地理の要旨

郷土地理は郷土の自然、人事を利用して、地理教授に必要な基礎觀念を授け、尙歴史的趣味及び理科的觀察力を養ひ兼て郷土を愛する念を養成するを以て要旨とす。

### 三 本科教材の選擇排列

教材の選擇上、特に留意せるは左の數箇條なり。

- イ 地圖の如何なるものかを會得せしむるに必要な材料
- ロ 可成直觀し得る材料
- ハ 可成模式的材料
- ニ 觀察地に關する重要な歴史的資料
- ホ 觀察地の地理的事項に密接の關係ある理科的資料

『附記』 觀察地の選定に就きては、成るべく適當なる材料を多く具備せる土地を選ぶことに注意せり。

教材の排列上、特に留意せるは左の二箇條なり。

- イ 學校を出發點として、漸次遠方の地に及ぶこと。
- ロ 觀察地に關する歴史的材料及び理科的資料は、其の地の地理的材料に附帶して説くこと。

### 四 教授上の注意

- 一 實地の踏査に先ちて、其の要點を授くべし。
- 二 實地踏査の後には、地形と地圖との聯絡を謀るべし。
- 三 實地踏査の後には、教室に於て之が整理をなすべし。
- イ 實地踏査によりて得たる智識を正確なる言語に發表せしむべし。
- ロ 實地踏査によりて得たる智識の要領を筆記せしむべし。
- ハ 觀察地の畧圖を描かしむべし。
- ニ 既製地圖を讀ましむる練習をなすべし。

### 五 教授細目

## 尋常科第四學年

### ●第一學期 教授豫定時數凡十二時

週	教授事項 (豫定時數)	教具及參考書
一	第一地圖 一 平面圖……………(凡六時間) 二 縮尺の必要な物の平面圖製作……………(1) 三 縮尺と其の必要な所以 「注意」縮尺を説くに當りては分數を用ひず「長さ幾分を一間と假定し」或は「長さ一寸を一丈と假定す」と云ふが如き方法による。	及川泰治著郷土圖と平面圖との對照湯呑茶碗、硯石等
二	四 教室の實測と其の平面圖製作……………(1)	
三	五 方位(東・西・南・北・北東・南東・南西・北西)……………(1)	磁石
四	六 地圖 「注意」地圖とは土地の平面圖にして、土地の高低の表し方に種々あることを知らしめ、尙特に方位記號を記入せざる場合に於ける方位に關する約束を會得せしむべく、更に既製地圖を示して方位の練習をなすべし	鳥瞰圖と地圖との對照圖

六	七	七 地圖の讀方練習……………(一)	東京市地圖
七	七	「注意」兒童各自に東京市の地圖を持たしめ、一基點を定めて市内に於ける著名なるものの方向及び距離測定の練習をなすべし	
八	七	第二 占春園 「注意」先づ實地に就きて左の觀察をなさしめ、後教室に於て之が整理をなすべし (凡三時間)	占春園の圖
九	八	一 坂 二 小山(頂、麓を附説すべし)	
十	八	三 森 四 池(岸を附説すべし)	
十一	九	五 半島と地峽 六 泉	
十二	九	第三 學校附近 「注意」本校表門より氷川神社に至る間を踏査せしめて左の觀察をなさしめたる後、教室に於て其の整理をなすべし (凡三時間)	日本全國 學校附近の地形圖
		一 水源 二 小川(支流、右岸、左岸を附説すべし)	
		三 谷	

十三	四	四 神社 五 學校附近の斷面圖製作	學校附近の斷面圖
----	---	----------------------	----------

●第二學期 教授豫定時數凡十三時

週	一	第四 護國寺附近 「注意」寄宿舎の門より改正道路に出で、大塚行電車線路を横切りて護國寺に至る道中、溝水の流るる方向の異なることを觀察せしめ、以て分水界を教授すべし。尙護國寺に就きては左記に注意すべし。 (凡三時間)	教具及び參考書 小石川區地圖
	二	一 位置 二 地勢 三 寺と佛教 四 寺と社との別 「注意」護國寺に於ては中山一位局、三條實美、大隈重信、山縣有明の墓に參拜せしむべく、又附近に豊島岡御陵墓地あることを知らしむべし	
		五 (富校より護國寺に至る) 順路略圖の製作	

第五 九段

(凡そ四時間)

「注意」當校より九段に至る道中、既習事項を復習(例へば分水界、右岸、左岸の如きもの)すべく、尙當校、九段間(凡一里)の歩行に要する時間に注意せしめ以て一里の歩行に要する時間を知らしむべし

九段地圖

位置

地勢(高臺といふ熟語を教ふ)

靖國神社の由來

遊就館

教會堂と耶蘇教

九段下の運河(川と運河との區別附説)

「注意」田安門前の橋上より國技館、三越等著名の建物を展望せしめ其の方位を言はしむる練習をなすべし  
佛敎、耶蘇敎等を練稱して宗教といふことを附説すべし

第六 隅田川の下流

(凡六時間)

「注意」電車を利用して先づ兩國橋に集合せしめ置き、同橋より順次下流を觀察せしむべし

一 隅田川の廣さ(兩國橋の附近)

二 河水の速度(兩岸附近は遅く中央部は早し)

四 五 六 七 八 九

十 十一 十二 十三

三 河水の作用(破壊、沈積、運搬)

四 河の效用(排水、灌溉、運輸、水力、水産)

五 靈岸島の船着場(港)

六 三角洲と月島

七 略圖製作

「注意」隅田川下流の踏査に當りて右岸、左岸、支流等の既習事項を復習し、更に本流、上流、中流、下流、河口等の熟語の意義を授くべし

隅田川下流地圖  
關東地方地圖

●第三學期 教授豫定時數凡九時

週	教授事項	(豫定時數)	教具及び參考書
一	第七 東京市	(凡五時間)	關東地方地圖 東京市地圖
二	一 位置		
三	二 面積		
四	三 地勢	(1)	
五	四 東京の古今		
六	イ 築城前の江戸		國史美談中巻 の太田道灌
七	ロ 澁漕と江戸城	(1)	

第八章 地圖に親しましむ可し

五	人口	ハ 徳川氏と江戸 ニ 維新都と東京	(1)
六	區劃		
七	行政 (市役所、市會)		(1)
八	市營の主要事業 (電車、電燈、水道、土木等)		(1)
九	繁華なる理由		(1)
第八	讀圖練習		(凡四時間)
一	「注意」兒童をして各文部省著作の尋常小學地理附圖を持たしめ、左記の事項を教授す		
二	同地圖の縮尺と距離の概測練習		(1)
三	畿、道、國、府、縣の區劃		(1)
四	各種の記號練習		(1)
	總復習 (主として既授熟語の復習)		(1)
		畿道國別日本 全圖 府縣別日本全圖	

□本書の印刷中、新に文部省著作の「尋常小學地理書附圖」が発賣せられた。併し本書に所謂「附圖」は大正二年發行のもの指して居るのである。

## 第九章 直觀方便物

### 一、重要な地理教授用教具

**直觀化の必要** 若し生徒を實地に引率して、様々の地理的事項を直觀せしめつゝ、其の地の地理を説き得るならば、最も有力な地理教授が出来るであらう。併し地理で取扱ふ範圍は極めて廣く、又其の事項も多種多様であるから、直觀せしめつゝ、教授し得る部分は極狭い部分である。吾人々類は地球表面の一部に住居し、一部分を往來して、其の一部分を直觀しては居るが、地球全體を一個の物として眺めることは出来ない。又實地を踏査しても、一目の下に觀察し得る部分は甚だ狭いものである。或は障礙物の爲に目を遮ぎられ、或は視力に制限があ

る爲に、現場と、視界以外に在る隣接地とを一體として、其の地勢を理解しようとする場合には、地圖か模型を見る必要が起つて来る。實地に臨まず、實物を眺めずして、地理を教へる場合は尙更であるから、地理を直観化する必要が起り、それが爲に地球儀、地圖、模型、寫眞、繪畫、標本など様々な直観方便物、即ち普通に所謂教具が必要になるのである。

經濟の豊かな米國の小學校などでは、紙數も字數も挿畫も多い地理の教科書を生徒に持たせて置き、先づ生徒自ら教科書と附圖とによつて調べ得るだけ調べた上で教室に臨ませ、教師は生徒まかせに出來ない部分をサツサと講義し、講義が終ると、直ちに活動寫眞によつて、其の實況を示す様にして居ると云ふことである。又生徒の躰が良く出來て居るから、其の仕事が誠に靜肅圓滑に運んで、騒ぎもしなければ、ハシヤギもしない。眞面目に調べた上、眞面目に講義を聽き、眞面目に活動

寫眞を眺めると云ふ様な態度が如何にも立派であると云ふことである。顧みて我が國の地理教授の近況を考へて見ると、實に汗顔の至りて、情なく思はれる點が少くない。教師には教師自ら當る可き仕事があり、生徒には生徒の働く可き仕事があるのであるが、教師と生徒の仕事の領分の辨別もなく、内容の充實しない教科書と、一昔以前に書いた附圖とをあてがつて、生徒自身にそれを調べさせるのが、教育的意義の最も深い地理教授であるかの如くに誤解して、動物園の檻の中の虎かライオンの様に、教壇の上を左に行つたり、右に行つたりして、見張番をするだけが教師の職務の様に心得て居る人もないではない。しかも之が近來流行の自學自習の眞髓であるかの如くに宣傳するに至つては、手のつけやうがない。

近來、我が國の小學校でも、或は幻燈を備へ、或は活動寫眞機械を買入



れて居る學校も多少は出来て居る。誠に結構なことであるが、種版やフィルムフィルムの適當なのが少いのは遺憾な點である。併し兎に角かう云ふ設備のある學校では、折々幻燈や活動を用ひるのであるが、生徒の自由とか、自治とか云ふ聲は高いが、眞に其の躰が出来てゐない爲に、暗室にすると、すぐ悪戯を始める生徒があり、幻燈や活動が始まると、少しも慎みのない連中が興行物を観る様な調子でいらぬことまで饒舌饒舌り立てるから、室内の靜肅などは望まれない。黒幕を明けると、又、あゝまぶしい。とか、やあ明るくなつた。とか言つて、騒ぎ立てると云ふ様なとも珍らしくはない。自由と放埒、自治と我が儘との區別の出来ない教師の下に、かう云ふ現象が表はれるのである。近頃、義務教育年限延長の呼聲が高くなつて居る。無論結構などではあるが、先づ教師の柄を改良してかゝらないと、延長しただけの効果が充分に擧らないかも

知れない。それには或は中央部に於て、或は地方に於て、普通教育の大本山、小本山と自任して居る師範系統の學校が本眞劍になつて、本當の仕事をしなければならぬ。直觀化の話が妙な方面に脱線したが、復話を本線に引返して、おとなしく直觀方便物に關する愚見を述べよう。

**地球儀について** 地球の形にしても、其の表面の状態にしても、絶對的に正確な表し方は出来るものでない。併し出来得る限り眞に近い表し方を工夫して、人間生活に不都合の無い様にしよう、様々に考案を廻らした結果、地球儀や地圖が出来た譯である。先づ地球儀から述べよう。

地球儀の創作者は判然しないが、現存の地球儀中、世界最古のものは、西曆一四九二年（後土御門天皇の明應元年。コロンブスが始めてサンサルバドル島に上陸した年）に獨逸の航海家ベハイムが作つたもので、ニールン

ベルヒ市に傳はつて居ると云ふことである。所で古代の地球儀は球面に地圖を書くか、或は彫付けたものであるが、今日の様に地圖を球面に貼付ける様になつたのは、同一五〇七年(後柏原天皇の永正四年)獨逸のワルトゼー、ミューレルが地球儀用の多圓錐投影圖法による世界地圖を製作してからのことであると謂はれて居る。稀には球面に模型を貼付けて、土地の高低を表したのもあるが、普通は地圖を貼付けたものである。地球儀は地球の大體の形を表した上、其の表面に於ける水陸の位置分布の概略を示す教具で、地球の形狀、運動等、數理地理學(地球星學)を説く場合に必要なものであるから、小學校に於ても必ず備へる可き教具の一つになつて居る。併し比較的用途の狭いもので、地誌教授の場合には殆んど使用することはない。然るに地球儀によつて、外國地誌を説けば國々を最も自然に近い位置に示して教授し得るとの考へか

ら、先年大阪市の某商人が、直徑三尺以上もある様な紙袋製の地球儀を賣出して、之に對する批評を聞きに來たことがある。見ると世界地圖を印刷した圓い紙袋である。之に空氣を入れて膨らました上、金屬製の臺に取付けると、頭の軽い大きな地球儀になるが、外國地理教授用としては、不便極まる物である。と批評して置いた。其の譯はかうである。假りに其の地球儀の赤道を生徒の目と水平に置くとすると、兩極に近づくに従つて、各國各地の形が奇妙に見えるのみならず、終には、全く見えない部分が出来る。尙又球體であるから、明暗の兩部が出来て、一方からは見えても、他方からは見えないと云ふ缺點があり、且地誌教授上に利用しようとするには、餘程大きくしなければならぬから、之を教室に置く場合に、大變廣い場處を占領する。其の上袋の中の空氣が僅かづつ漏れる爲に、一二時間毎に空氣を入れてやらなければなら

ないと云ふ不便な品物であつた。いつの世にでもあることだが、疑つては思案に能はず、疑らざれば其の味を知らず。などと言つて疑つて、  
／＼疑りぬいて、結局實用にならないものを拵へたり、或はホンノ一時の思ひ付きで左程役に立たないものを作り上げ、後から無理に様々の効能書をつけ、常人だけが重寶がつて居るばかりで、世間は一向之を認めないと云ふものが随分出て来る。紙袋製の地球儀も多分其の一つになつたであらう。其の後之を用ひて居る學校を見たこともなく、又頓と其の評判も耳にしたことがない。全體地圖の代りに地球儀を用ひて、外國地誌を教へさせようとする狙ひが、的を外れて居る。

**模型について** 地球の表面の起伏状態を一目瞭然に表はさうとの考案から、地理模型と云ふものが生れたものである。所が模型を製作する場合に、横(水平)の縮尺と、縦(垂直)の縮尺とを同一にすると、土地

の高低起伏の状態が精密に表せないから、故ら縦と横との縮尺をかへて、例へば横の長さは二萬分の一にしても、縦の高さには五千分の一の縮尺を用ひると云ふ様に、横よりも縦の起伏を誇大に示す方法を執るのである。随つて模型よりも、精密な地圖の方が、土地の實相を能く表して居るのであるが、素人目には模型の方が地圖よりも地形の大體を早く飲込むことが出来るのである。此の點から云ふと小學校あたりでの地理教授用の教具として、模型は甚だ重寶なものに相違ない。地理教授の準備として、地圖の成立ちを授ける場合の如きも、先づ郷土の實地を觀察させた上、郷土の模型を示して、之と對照させ、更に其の模型と郷土の地圖とを比較對照せしめることにすれば、容易に地圖の如何なるものかを理解させることが出来る。

一般地理教授に這入つてからも、單に地圖だけでなく、模型を併用す

ることにすれば、生徒は樂に地形の大體を飲込む譯であるが、常に模型によつて地理を授けようとするには、生徒が生徒用の模型を持つてゐなければならぬことになる。唯大きな模型を壁面に懸けて示しても、之を少し距離を置いて眺めると、殆んど地圖を眺めるのと變りはなく、又光線の工合によつては、模型の上に蔭と日向が出來て、鮮明を缺く嫌ひもある。先年拓殖博覽會の時に出品せられた臺灣や朝鮮の偉大な模型の様なものは、横に据付けてグル／＼まはりながら鳥瞰的に眺めると、誠に能く地形の大體が知り得るのであるが、普通の學校では其の置場がない。それに今日の我が國の状態では、學校に模型を一通り備へ付けることも、生徒各自が生徒用の模型を持つことも、經濟が許さない。随つて地圖を用ひて地理を説くのが主になる。若し幸に或土地の大きな模型があるならば、其の製作法の如何によつて、之を壁面に

掲げて置くなり、或は控所に据付けて置くなりして、隨時生徒に觀察させる様にする事で満足しなければなるまい。

模型的地圖について 模型が地理教授上、殊に初歩の間に使用して重寶な教具でありながら、經濟上の關係や、取扱ひの不便など色々の事情から、普く之を使用することが出來ないとなると、地圖であつて、模型の様な役目をするものが出來ないものかと工夫するのは人情の自然である。つまり模型の性質を備へた地圖、即ち模型的地圖を作つて見ようと思ふ考への起るのが自然の道順である。予も其の一人で、東京高等師範學校の學生として、製圖練習を課せられてゐた頃から、機會を得たならば模型的地圖を製作して見ようと思つてゐた。随つて其の後内外國製の模型的地圖を注意して見てはゐたが、之ならばと思ふ程巧に出來てゐるものを見付けることが出來なかつた。

然るに先年恩師理學博士山崎直方先生が萬國地理學會に出席なさる爲に、歐羅巴に御出でになつた。折悪しく伊土戦争が起つた所から、其の會は中止になつたが、御歸朝の時に御持歸りになつた數ある地圖の中、之ならば理想的だと思ふものが一つあつた。それは獨逸のクレーネルトの拵へた模型的地圖で、實に上手に仕上がつて居る。丸切り模型を見る様な感じがして、地形の大體を手取早く飲込ませるのに最も都合のよい地圖だと思ひ込んだ。そこで大正三年東京上野公園に大正博覽會が開かれ、東京高等師範學校附屬小學校から、何か目先の變つた品を、其の教育館に陳列しようと思ふことになつた時、出品物の一つとして、模型的地圖を出すことにした。其の時には成る可く高低の差の著しい處を描くのが得策と考へたから、臺灣の地形を表はすことに定めた。愈々着手して見ると中々の骨折。全くの白紙に普通の地圖を

書き、更に蔭、日向を考へながら彩色を施して、高い處は高く見え、低い處は低く見える様に書いたのである。之は可なり面倒な仕事で、仕上げ迄には肩が凝る、齒齦が張れると云ふ様なこともあつた。併し根氣よく仕事を續けて稍自信のあるものになることが出来たから、畫工を頼んで手際よく仕上げさせた。馴れない仕事であるから、畫工にも餘程骨が折れた様であつたが、兎に角完成したから、それを出品したことであつた。

所て、模型的地圖が地形の大體を知る上に便利なものであるとしても、かう製作に骨が折れては、世間に吹聴した所で、眞似をして呉れる人がない。モット輕便に出来る法がないものかと考へ出した。所が其後文部省で、新に版を起して、發行せられた小學校用の掛地圖を見ると、以前に出されたものとは違つて、土地の高低がケバ書きになつて居る。

善くそれを眺めると、ケバによつて自然に土地の高低が或る程度まで分る様にしてある。そこで試にケバの密になつて居る處を濃く塗り、粗になつて居る處を薄く彩色して見た所が、土地の高低起伏が誠に明瞭に見えて來た。仍つて前に執筆させた畫工を頼んで、日本の各地方圖を全部模型的地圖に塗上げさせた。其の地圖は今も同校で使用せられて居る。全くの白紙から拵へ上げたもの程に鮮明には行かないが、其の勞力は非常に省ける譯である。手まめな人で、しかも根氣の續く人であるならば、此の方法によると、比較的輕便に模型的地圖を製作することが出来るのである。

併し、文部省發行の地圖に、すぐ彩色を加へようとする、印刷用インキの油がある爲に、繪の具を弾いて仕舞ふ。それ故に先づ水を含んだ海綿を以て、地圖を損じない程度に紙面を拭ひ、油氣を取去つてから、濃

淡をつけなければならぬ。愈、彩色を施すと云ふ場合には、地圖に向つて左上の方から、斜に光線を受けて居るものとする描圖法上の約束を頭に持つて、蔭、日向を考へ蔭の方を濃く塗り、日向の方は其の儘に残す部分もあり、又極薄く塗る部分もある。著しく高い所の日向の方には胡粉をつけることにすればよいのである。

さて、此の地圖を使用した上の感じを述べると、生徒は苦まらずして土地の高低起伏が一目瞭然早く飲込めるから、普通の地圖に對するよりも、餘程の興味を以て眺めるものである。所で模型的地圖を見せて地理を説くことが、將來の妨げになる様なことが無いかとも考へて見なければならぬが、其の心配は全く無用である。日本でも中等程度の學校用の地理教科書中にも、地形の大體を大觀する便利を圖る爲に、六大洲の模型的地圖を挿んで居るものもあり、外國の地理教科書には、隨

分澤山之を挿んで居るものがあることでも、其の心配のないことは明瞭である。其の上生徒は模型的地圖ばかりではなく、普通の地圖も見るのであるから、尙更其の心配はない譯である。

鳥瞰圖式の地圖について 地圖としては誠に不精密、不正確なものであり、方向も、高低も、距離、面積なども正しく示すことは出来ないものでありながら、土地の極大體の有様を理解させる上に便利なものとして、昔の名所圖繪類を始め、今日の旅行案内類に至るまで用ひられて居る鳥瞰圖式の地圖も、全く見棄てるには及ばない。此の種の地圖では山も川も橋も寺も社も其儘の形を示す様にしたものであるから、俗人には最も早分りのする地圖である。小學校に於ても、普通の地圖では理解し難い様な場處の様子を、鳥瞰圖で示すと、容易に了解し得るところが少くないから、或る一小部分の土地の有様を説明する様な場合に



利用す可きものである。近來民間で發行した旅行用鳥瞰圖式の地圖があつて、通俗社會に歓迎せられて居るが、見棄て難い長所があるからである。鐵道省で編纂せられる「鐵道旅行案内」は疑りに疑つた意匠を以て、年々發行せられて居り、其の都度新面目を發揮して居る垢抜けのしたものであるが、實に氣の利いた鳥瞰圖式の地圖が挿んである。採る可き長所を巧に利用したもので、多くの人に賞讃せられて居る。

斯様な譯であるから、不精密不正確の故を以て、其の全部を毛嫌ひせず採用す可き長所があるならば、巧に之を利用する様に心懸けたいと思ふ。例へば鐵道鹿兒島本線中の一驛たる大畑おほはた附近に於けるループ式鐵道の如きものも、兒童用附圖だけを見たのでは、どう云ふ様に鐵道が敷かれて居るのかを了解する事が出来にくい。然るに鐵道旅行案内の地圖流に示すと、すぐ誰にでも現場の大體を想像することが出来る。

#### 地理教授用繪畫について

繪は世界の共通語とも謂はれる程で、

實に重寶なものである。支那の袁世凱や獨逸のカイゼル、ウィルヘルム二世などは日本文は讀めないに拘はらず、始終東京バックの類に目を通してゐたものだと言つたことがある。それは、東京バックなどが、善く時事問題を諷刺的ポンチ畫に表はし、時には自分自身も其の畫題に取られることもあつたから、寓意あるポンチ畫を見れば、何事が今、

日本の問題になつて居るか、或は自分の政策や行動が如何に日本に響いて居るかの一端を知る爲であつたと言はれて居る。

それと之とは多少意味が違ふが、地理教授に於て、各國各地の狀況を紹介する場合に、教師の數十百言を費す説明よりも、一枚の繪畫を示した方が、理解も早く、印象も深いと云ふ場合が少くはないのである。實に繪畫は實物、實地の狀態を最も分り易く示すもので、地圖や模型の備へてゐない長所を持つて居る。近來は地理教授に利用す可き寫眞、寫眞版、繪端書などが比較的に得易い世の中になつては居るが、其の多くは教授用として小さい憾がある。もつとも活動寫眞や幻燈が始終地理教授に使用せられる様な時代になつたならば、繪畫の必要も薄らぐ譯であるが、今日ではまだ寫眞や繪端書類を本にして書上げた繪畫で、教室の後の方に居る生徒にも明瞭に眺め得る大きさのものが必要で



ある。

それ故坊間で地理教授用の繪畫を賣出して居るのであるが、其の多くは教科書の挿畫を擴大して、之に彩色を加へたものである。無論かう云ふものも無いよりは有つた方がよいに相違ない。教科書の挿畫其の物を説明したり、或は挿畫によつて或事柄を説いたりする場合に、挿畫を擴大したものを示して居る方が説明に便利である。併しそれよりも挿畫に出てゐないもので、地理教授上に必要な繪畫が澤山あるのであるから、挿畫以外のものゝ中から、然る可きものを撰擇した方がよいのである。惜い哉日本では地理教授用繪畫出版者に、まだそれだけの頭がないから、折角出版しながら意味の少い物を主にして居る譯である。

それ故に予は、地理教授用として良い寫眞、繪端書類を蒐集すること

に努力し、其の中簡單なものは、自分で擴大し、面倒なのは畫工に擴大させて、用ひることにして來たが、繪は粗雑でも、四間或は五間を離れて之れを眺める時に、要所が明瞭に見える様な書振りにしてゐたのである。かくして必要な繪畫掛圖を作る爲には、先づ一定の大きさの臺紙も、掛圖掛をも豫め用意して置いて、必要ある毎に、其の臺紙に繪を書き、書上げたものは、地方別又は洲別にして、掛圖掛に整頓して置くことにすれば誠に便利である。

**標本について** 地理教授用の標本は、早くから民間で發賣して居るものがある。併し其の定價を安くしようとする所から、教授用として不十分なものが多い。それ故予は從來地方に出張を命ぜられるとか、各地を巡講するとか、見學旅行に出掛けるとか云ふ場合には、必ず適當な標本を求めることを一つの目的とし、多くは自費で求めたものを、

地理教室に寄附する様にしてゐた。予が從來最も長く奉職してゐた東京高等師範學校の附屬小學校も、他の多くの學校と同様に、經費の豊かでない學校であるから、地理の参考書や標本などを學校の金では買入れることが出来ない。折々生徒が卒業しがけに學校に寄附する記念品費の分配を願ひ、博覽會などの開けた場合に、各府縣の賣店を見廻つて、適當と認める標本を買集めたものである。或は生徒の保護者から折々寄贈してくれた標本類も、長年月の間には大分あつた。それ等を整頓する爲に、標本整理棚や陳列棚を造つたが、其の内特に便利だと思ふたのは六尺四方の棚を全部引出し仕立てにしたものであつた。一々の引出しの形は、賣藥店に在る藥箆筒のそれよりも遙に大きいものであるが、大體藥箆筒の様なもので、引出しばかりの大きな箆筒である。其の引出しを府縣別、洲別に用ひることにして、標本類も繪端書寫

具なども入れて、置くようにしてゐたのである。斯様にすれば、其の日の地理教授に當つて、標本類を取出すにも、後始末をする上にも便利である。折角集めた標本類も、出し入れが面倒であると、棚の奥に仕舞ひ込んだ儘で、一向利用せられない様になり易いから、標本を始めとして其の他の教具も、蒐集に努めると同時に、其の整理、整頓にも注意を拂はねばならない。

## 二、教師の心懸けが大切

心懸け一つで集め得る教具が少くない。之は地理教授用の教具である。と銘を打つて、製作せられたものでもなく、又販賣せられてゐないものの中にも、地理教授上に利用し得るものが少くない。しかも其れが教師の心懸け一つで、金錢を支拂はずに手に入れ得ることが随

分ある。例へば大商店、大會社などで、大賣出しとか、事業の擴張とか云ふ様な機會に、廣告用として方々に配つて居るビラの中には、随分意匠を凝らしたものがあつたから、或は歴史教授用の教具になるものもあり、或は地理教授、圖畫教授用の參考品になるものもある。鐵道省から折々出して居られる全國の交通圖とか、日本郵船會社や、大阪商船會社等のビラなどには立派な地理教授用品になるものが少くない。又東京の如きは市内電車の中に出される廣告類の中に、砂糖、醬油、灘酒、甲州産葡萄酒など地理教授の材料となつて居るもの、廣告が屢々出る。一定の期間が過ぎると、取外されるのであるから、かう云ふものは手蔓を求めて交渉すれば、無代で貰ふことが困難ではない。或は洋服屋が持廻る服地の見本なども、昨年の見本は昨年限りて、今年の見本にはならぬいから、古見本の寄贈を頼めば日頃の御得意先の學校には、大抵喜んで

納めて呉れる。其の際、舶來品と和製との區別も洋服屋に頼めば、容易に仕分けも出来るのである。

或は自分の家で使用して居る陶磁器類等の破損した場合に、産地の明瞭なものは、メンダインの様なもの、接合せた上、學校に持つて行く。箱入りの蜜柑を求めたならば、商標のついた儘の空箱を標本棚に入れて置く。銚子や野田産の瓶詰の醬油を使つたならば、之もレットルを剥がずに、空瓶を學校に持參して置く。山に登つた時には、岩石、川に行つた場合には砂や砂利を少しばかりでも持歸つて來ると云ふ様に心懸けて居れば、日常手近な處で、しかも無代で重寶な教授用具が得られ、時には殆んど廢物視せられるものが教具になる。

#### 廢物利用の旅行記念帖

餘談に亘るが廢物の序に、予が年來實行して居る廢物利用の旅行記念帖のことを申添へて置かう。之は直接地理教授に

関係がある譯でもなく、又其の教具に密接な因縁があるのでもないが、丸切り地理に關係が無いとも云へない。予は旅行に出掛ける場合には、廢物を利用する記念帖を拵へる爲に、其の材料を集めて、それを雜記帳に張付けて置くことにして居る。先づ東京驛で汽車に乗込むと、赤帽に運ばせた荷物について居る荷札を取つて置く。食堂車の精養軒が配る「御食事の用意出來仕候」と印刷した小紙も仕舞つて置く。静岡で鯛飯を買ふと、其の蓋にきせてある飾り紙を保存して置く。濱松驛で甘納豆を買へば、中實を平げた空袋も棄てはしない。宿屋に泊ると、箸紙を一枚だけは残して置く。出發の際の荷物につけてくれる宿屋の荷札も、茶代のウツリの包紙も仕舞ひ込んで置くのである。かくして、普通の人が唯廢物として棄て、仕舞ふ様なものを、雜記帳に貼付け年月日などを書入れて置くと、後になつてから、當時を想ひ起す記念帖となるのみならず、辨當の上紙には停車場から其の附近の役所や名所などに至る距離が刷込んであるとか、或は温泉宿であると、箸紙の裏に温泉の成分、効能が印刷してあるとか云ふ譯で、地理上の参考になるものもある。



消毒長生箸

之は嘗て恩師山崎博士が、予の郷國たる但馬の和田山驛で御買ひになつた辨當の上紙や、豊岡驛で買はれた氷の容器、瀬戸物製を御示し下さつたことから思ひついたことで、爾來多年實行して居る。先年暑中休暇前に、此の事を生徒に話して置いたら、休暇後同じ様な廢物利用の旅行記念帖を作つて、大變喜んでゐる者が少くなかつた。

## 第十章 具體化の必要

## 一、數量の具體的説明

直觀化し難い材料がある

前章に於て、地理教授には直觀方便物

の力を藉りなければならぬものゝ多いことを述べたが、數ある地理材料の中には、直觀化し難いものも随分多い。之に對しては、成程と會得し得る資料を以て、具體的に説明するより外に道はないのである。茲に其の主なるものを考へて見ると、先づ擧げる可きものは數量に關するものである。例へば人口、面積、産物の産額、貿易額の如きものになると、正確に表はさうとすればする程、數を精密に擧げなければならぬ譯になる。無論統計上の數量は人の記憶に困難を感ずるものゝ一つ

で、示すものゝ數が多くなればなる程、一々の數量の記憶を妨げるのであるから、小學校などでは數量の諸記は成る可く避ける態度を取るのである。併し物によつては、其の概數を記憶させて置く方が便利であるから、記憶し得る生徒には、成る可く覺えさせる様な態度を取ることもある。例へば日本の人口の概數は、諸外國の人口を知る際の比較の種となり、日本の面積の概數を覚えて居れば諸外國の面積を示す時に、對照する材料になると云ふ譯であるから、極著しいものゝ概數は承知させて置くのが重寶である。所が、小學校でも概數を紹介して置きたいと云ふ様なものは、大抵普通の人の日常生活に於ては、取扱ふ場合の少い大數であるから、二數を比較して其の大小を知ることが容易であつても、一つの數量を聞いただけでは、如何に大數であるかの想像もつかないのである。例へば一億と二億とを比較すれば、

二億の方が大數で、一億の二倍だと云ふことは誰でも知つて居るが、其の一億がどれだけ大きな數であるかと云ふことは、大抵の人に分らない。地理教授上折々使用せられる統計的圖表の如きも、二つ以上の數量を比較して、其の大小の割合を明瞭に示す上には有力なものであるが、一々の數量其の物の如何に大數であるかを示すことは出来ない。之が爲に數量の具體的説明の必要が生ずるのである。

**數量の具體的説明** 吾々が日常生活に於て取扱ふ數量の範圍は比較的狭いものである。數學の問題としては、吾々の實生活には關係なく、如何に大きな數でも、小さな數でも計算するのであるが、小數點以下の大變小さな數になると、計算をするだけで、其の數が如何に小さいかを想像することが出来ない。それと同様に大變大きな數に對した場合にも、矢張り其の大きさを想像することが出来ない。例へば亞

細亞洲の總人口は凡そ八億と見積られて居るが、之は支那の人口約四億の二倍であり、世界の總人口十六億餘の半分であると云ふ様に、他の數と比較して、其の大小を辨別することは出来る。併し八億が如何に大數であるかを、直觀的に示す譯には行かない。八億の人が集合して居る寫眞を示すことも出来ず、又八億の人形を並べることが出来ない。そこで、今假りに八億の人を一列横隊に整列させるとする。さうすると大錦の様な偉大な體格の人もあり、又吾々の様に、枯木を風呂敷で包んだ様な細い者もある。併し計算のし易い様に、一人の要する地幅を平均一尺と假定すると、八億人の一列横隊の長さは、實に六萬一千七百二十八里十四町十三間二尺と云ふ長い列になる。それ故に、此の列を地球の赤道上に整列させると、地球を六巻きして尙餘分が出るのである。物數寄な様であるが、此の列に點呼を施すことゝし、一人の番

號を平均一秒と假定して計算すると、最右翼の身長最大の偉人が「一」と唱へてから、最左翼の身長最短の矮人が「八億」と唱へ終るまでには、晝夜兼行不眠不休で二十五年四箇月十四日六時十三分二秒を要するのである。斯様な取扱をすれば、八億と云ふ数は、口でこそ一口だが、實に大きな數量だと云ふことの會得が出来る。

金高にしても同様で、近來は呼聲だけは大きな金高が耳に響く機會が多くなつて居る。例へば日本石油會社の資本金が八千萬圓であるとか、大阪商船、三井物産、三井銀行、三井鑛山、三菱鑛業などの諸會社の資本金が何れも一億圓であるとか、東京電燈會社の資本金が一億六千餘萬圓で、滿鐵が四億四千萬圓。大正十一年の我が内地に於ける對外貿易總額が三十五億二千七百七十六萬〇〇五十圓、獨逸が聯合國側に支拂ふ可き賠償金は六百六十億圓（千三百二十億金貨馬克）と云ふ様に、大

金の呼聲だけには觸れる機會が大層多くなつて居る。随つて十萬圓とか百萬圓とかは取るにも足らぬハシタ金の様な了簡違ひをする人が無いとも限らないが、其の實百萬圓の金を儲けたことも、拜んだことも無い人が、生意氣にハシタ金呼ばはりをするのである。實に勿體ない話で、自分達はまだ一萬圓の金を一度に眺めたこともなし、又借りたこともない。第一自分等を見込んで、一萬圓どころか、千圓貸してくれる人もない。所で今假りに百萬圓を一圓紙幣で積上げて置いて、之を一人で數へるとする。紙幣を一枚數へるのに一秒かゝると假定すれば、晝夜兼行、不眠不休で數へても、十一月十三時四十六分四十秒かゝるのである。此の數へ方によつて大正十一年の我が貿易額三十五億二千七百七十六萬餘圓を數へる場合には、百十一年餘りかゝる譯になる。さうして見ると、獨逸の賠償金六百六十億圓は實に莫大な金額で、敗殘

の獨逸が到底脊負ひ切れないと言ふのも無理はなく、純金と少しも違はない人造金を極安價に製造する工夫をしなければならぬと研究して居るのも道理である。

兎に角小學校の地理教授では、數量を精密に示す必要は少いのであるが、重要なものゝ數量は承知させて置くのが便利なこともあるから、或る場合には前に述べた様な方法で説明するのが親切である。併し概數を示す度に、必ずしも行列させたり、番號をかけさせたりする必要はない。數量に關しては、かう云ふ考へ方もあると云ふことを、或機會に知らせて置けば、後には生徒自身で、要領を得た考へ方の工夫をするものである。けれども世には凝り性の人が往々あるもので、先年或縣で教育品展覽會の開かれた時に、百萬と云ふ數の直觀方便物だと云つて、紙に百萬の黒點を打ち、之を出品した人があつたさうである。之は

非常な勞力を要したものに相違ない。平均一秒に一點を打つとすれば、飲まず、喰はず、休まずに打續けても、十一月十三時四十六分四十秒かゝらないと、百萬個の點は打てない。其の審査に當つた或人が「直觀方便物も物によりけりである。斯の如きは寧ろ滑稽である。」と言つて選外にしたと話してゐたことがあつた。誠にものともな話で、其の黒點表の點を見るのに、一點一秒と假定すれば、矢張り飲まず、喰はず、眠らず、休まずに見てゐても、十一月十三時四十六分四十秒かゝるのである。直觀化も必要であり、具體化も大切な心得であるが、凝り過ぎたり、適用を誤まつたりしては笑草になる。

**氣候狀態の具體化**　同じく數量に關係はあるが、前に述べたものとは、稍趣を異にするものがある。それは氣候狀態である。氣候狀態も之を精密に表はさうとすれば、數を以て示さなければならぬもの



である。気温の高低は寒暖計の度数により、雨量の多少は雨量計の示す数を用ひ、晴雨の多少は其の日数によつて之を示し、湿度は湿度計の示す度数により、霜、雪の季節は年月日によつて表はすのであるから、數を離れて精密な氣象状態を説くことは出来ないものである。

然るに、是等の數を聞いて、其の氣象状態の實感を想像することは出来ないものである。例へば気温の高低にしても、寒暖計の度数を聞いて、其の寒さ加減、暑さ加減を知ることが出来ない。唯從來觀測した度数と比較して、其の度数が其の地に於ける最高温度であるとか、最低の記録であるとか、或は滅多に無い暑さであるとか、寒さであるとか云ふ判断を下すだけで、暑さ寒さの加減の實際を餘處に於て知ることが出来ないものである。明治四十一年一月十九日樺太の落合で計つた攝氏零下四十五度六分が從來觀測し得た我が國の最低気温であり、同四

十二年八月六日新潟で計つた三十九度一分が最高温度であることは知り得ても、其の寒さ、暑さの實感は到底餘處から想像することは出来るものではない。それ故に寒ければ寒いにつけ、暑ければ暑いにつけての状態を示す他の材料が必要になる譯である。

所で小學校の地理教授に於ける氣候の取扱は、氣象學専門家の調査の様に、氣象に關係ある總ての材料を整へて、精密に説明するのではなく、各地の氣候の著しい特徴を紹介するもので、寒いとか、暑いとか、溫和であるとか、雨が多いたとか、雪が深いたとか、乾燥するとか云ふ位の程度で通過するのであるから、其の著しい點を「成程」と會得の出来る様な事柄を以て説明することは左程困難なことでもなく、又必要なことである。例へば樺太が冬寒い處であることは誰も承知して居ることであるが、其の南方の玄關口とも謂ふ可き大泊に於ける初霜を調べて見ると、平

均九月二十五日である。最も早かつた時を見ると、九月十四日に結霜したこともある。又初雪の平均は十月二十五日であるから、東京邊では旅行や遠足に適當な時機となつて居る時である。終雪の平均は五月二十日であるが、其の記録は六月で、六月十四日に雪の降つたこともある。之は單に大泊に於ける雪や霜の話に過ぎないが、樺太の寒地たる一端を窺ふ材料になるのである。又樺太では臺灣あたりの暖地の様に、年中季節々々の農作物を輪栽することが出来ないから、農家では必ず牛、馬などの家畜を飼育して、冬野外で仕事の出来ない理合せに家畜を太らせる様に注意しなければならぬと云ふ様なことも、亦寒地たることを會得させる爲の材料になる。此の外衣食住、交通など様々の方面から、氣候状態を説明する材料を得られるが、茲には之を省略して、北海道に移らう。

徳富健次郎氏の著「みみずのたはこと」の中に、かう云ふ話が出て居る。

上略寒い話では、鉄の刃先にはさまつた豆粒を嚙みに來た鼠の舌が鉄に凍りついたまゝ、死に鼠を下げると、重たい開鑿鉄がブラリ下つても離れなかつた  
下略

之は徳富先生が、網走線中の一驛たる陸別附近で牧場を經營して居る友人を訪問せられた時、其の牧場創業以來の老功片山某から聞かれた話であるが、餘程珍らしく思はれた爲であらう、みみずのたはことに記して居られる。斯様な珍談が始終ある譯でもないが、極端な寒さを見ると、嘗て旭川に在る上川測候所では攝氏の零下四十一度に下つたこともある位で（明治三十五年一月二十五日）、北海道の冬も中々寒い。随つて暖かな季節には内地と同様、ゴム輪の人力車が通うて居るが、冬になると櫓が人力車に代り、馬が引きまはる馬櫓の世界になつて仕舞ひ、

新築の學校や役所の窓ガラスは大抵二重になつて居る。之も冬の寒さを防ぐ爲である。

本州に於ても奥羽地方は冬の寒さが可なり烈しい爲に、豪家や上等の宿屋には藏座敷くらざしきと云ふ特別の座敷がある。之は土藏造りの座敷であるから、外面から見ると、全く土藏であるが、中に這入つて見ると、立派な御座敷になつて居る。普通の室に比べると、多少光線が足りないが、一方の壁面から上手に光線を入れる様になつて居るから、暗いと云ふ程ではなく、誠に落着きの良い室になつて居る。之も冬の寒さを防ぐための建築で、來客でもあつた場合には、藏座敷に案内するのが一つの歡待法になつて居るのである。又此の地方の學校には辨當べんどうヌクメが備へてあつて、冬になれば生徒は毎朝學校に行くと、先づ辨當をそれに入れて置く。さうしなければ晝食の場合に、飯も菜もつめたくて喰ふ

ことが出來ないからである。又同じ奥羽地方でも日本海に沿うて居る山形、秋田兩縣方面は吹雪が強くて、雪の深い處であるから、地形の工合や風の吹廻して、特に雪の深く積る心配のある場所では、汽車の不通を恐れる所から、鐵道奥羽線には殆んどウルサイと思ふ程に、長い雪よけ隧道が設けられて居り、又處によつては、線路に沿うて長い防雪林が仕立てゝある。尙此の方面にはモンベモンベ着用の人が甚だ多く、海岸地方では冬外出の時に莫産もくさん蓑を着用する者が多いが、之も雪や吹雪に備へる爲に考案せられたものである。

雪で有名なのは古來北陸方面で、屢、落語種にもなる處である。殊に有名なのが、越後で、長岡、高田は名高い雁木町、高田の騎兵聯隊では馬の爲に雪中運動場に充てる大きな建物まである。雪が降り始めると、殆んど半年間は屋外で運動することが出來ない所から、一時は全國各市

の小學生徒中、體格の最も悪いのは高田市だと云はれてゐたのである。併し近來は我が國に於ける雪中の新運動たるスキートの本場になつて居る。明治四十四年高田師團で其の練習を始めたもので、最初は軍人間の雪中運動であつたが、今では各種の學校生徒は言ふに及ばず、一般の人々も盛に練習する様になり、急病人ある場合には醫者もスキートで病家を見舞ふ必要があり、盜賊がスキートで逃げる心配があるから、警察官も其の練習をする様になつて居る。予はまだ其の實況を見たことはないが、二回高田市に出張して、聞いた所によると、小學校入學以前の兒童中にも上手にスキートを操る者があるさうである。最初は高田の舊城址の濠に沿うて居る土手で練習し、其の要領を飲込んでから後、市の西約二十町に在る金谷山と云ふ小山で滑走するのである。一體我が國に於けるスキートは、明治四十一年札幌農科大學の獨逸語の教師が、

之を北海道に傳へたのが嚆矢であるが、此の時には、殆んど世の注意を惹かなかつた。然るに明治四十三年瑞典駐劄の公使杉村虎一氏が送つて來たスキートを高田師團に交附し、翌年其の練習を始めたのが、流行の起りになつたのであるから、本邦に於けるスキートの發祥地は高田であると謂つてよいのである。

元來、日本に於ける深雪地帯は、本州の中日本海に向つて居る斜面であるから、雪に就いては各地に様々なことがあるが、茲には省略して朝鮮に移る。朝鮮の中でも三南地方は氣候の溫和な處であるが、其の他は夏の暑さ、冬の寒さの烈しい處である。殊に冬の寒さに難儀を感ずるから、朝鮮人の家屋は耐寒設備を主としたもので、家々皆溫突を備へて居るのである。溫突は床下の一方に火の焚口があつて、其處から煙の通る可き數條の溝の様な通路が床下に設けてある。其の溝の上に

は平たい石を並べ、馬糞をスサにした泥を以て其の上を塗り堅めるのである。即ち床と言ふのは、石と馬糞交りの泥とで出来て居る譯である。馬糞をスサに用ひると聞けば、不潔を聯想し易いが、惡臭を放つてもなし、又床の上には豆油を用ひた油紙を貼詰め、絶えず掃除をするから、實に清潔な居心地の良い室である。一方の焚口で火を焚けば、其の烟が床下にある溝を通つて床を暖めた上、他方の出口から出て行く様にしてあるのである。何分朝鮮の冬は嚴寒で、漢江以北の池も河も結氷し、河舟も通らないから、鴨綠江の開閉橋も結氷期には之を開閉する必要がないのである。斯様な次第であるから、温突の様な一種の暖房装置が發達したものである。

朝鮮既に斯の通りであるから、西比利亞の冬は一層甚しく、殊に其の北部一帯の凍土帯は、寒冽無比の地と稱せられ、夏季約七旬以外は、河も

湖沼も海も常に結氷し、全土氷雪に蔽はれて居る。極暑の時には地表の氷雪が融解して濕潤な沼澤地となり、蘚苔雜草も生じ、水禽、馴鹿なども姿を表はすが、さう云ふ季節でも地下數尺の水分は矢張り凍結して居ると云ふことであり、從來世界で觀測し得た最低氣温氷點下六十八度も、此の地帯中のウエルホヤンスクで計つたのである。

露西亞本國の北部も極寒の地であり、白海方面は毎年約九箇月は海水が結氷し、フィンランド灣の如きも凡そ五箇月は結氷すると謂はれて居る。

北米大陸に於ても、北部は酷寒の地で、ハドソン灣の如きも、毎年約八箇月間は、結氷或は流水の爲に航海が不可能であり、マッケンジー河口やグレートベア湖の如きも凡そ九箇月は結氷すると謂ふことである。アラスカ半島の寒威も亦凜烈で、舟運の便ある川も、其の航行期は毎年

約四箇月に過ぎず、ノートン灣岸の小都ノームでは、嚴冬に水道の水が凍る爲に、水道の鐵管と並行して蒸氣を通ずる鐵管を敷設し、之に蒸氣を通じて其の結氷を防いで居ると云ふことである。

グリーンランド島では、年中氷雪に蔽はれて居る處が多い爲に、陸と海との界が今以て不明な處が多く、此の島の南部から、北米大陸の北部に亘つて住んで居るエスキモーは毛皮製の被服類を身に纏ひ、冬は氷屋内に冬籠りをするのであるが、其の女に一つ嫌な仕事がある。即ち家人が氷雪を踏んで屋外から歸つて來ると、ぬいだ靴を取つて、齒で靴を噛み柔らげて置くのである。さうしないと、靴が寒氣の爲にいてて、皮にヒビが出来、靴の破損が早いからだと云ふことである。

氣候の暑い方の例を二三述べるが、東京府下の小笠原諸島に行つて見ると、風物が餘程違ふ。此の諸島は熱帯には這入つてゐないが、亞熱

帯とも謂ふ可き位置に在るから、暖か過ぎて松や杉は育たない。椰子、檳榔樹、林投樹、濱桐など熱帯性の植物ばかり。耕作物も甘蔗が主で、バナナやアツプルやバナナなども多少作られて居る。家屋を見ると、島廳や警察署などは、内地流の瓦葺であるが、一般の家は屋根も熱帯性植物の葉を用ひ、壁もつけずに植物の葉を以て、外部から内部が見透かされない様にしてある。室内に這入つて見ると天井の無い家が少くない。室内を成る可く涼しく保つ爲のものと思はれる。

委任統治の我が南洋諸島は、熱帯内に在るから、毎日の暑さの繼續時間が高い。氣温は存外高くないのに、暑さを感じずる度は強く、流石に熱帯だと肯かれると云ふことである。島によつては西洋の宣教師の教化によつて、洋服を着用して居る處もあるが、島によつては、腰籠を用ふるのみで、殆んど丸裸で暮す處もあり、或は我が内地の風呂敷の様な布

の中央に穴をあけ、そこから頭を出して、首から下をあらはに出さないだけの用にして居る島もあるのである。又此の方面の家の屋根は著しく勾配が急になつてゐて、窓が少い。之は屋根が緩傾斜になつて居ると、日射面積が廣くなるから、室内が暑くなり、窓が多いと屋外の地面の輻射熱が室内に這入つて来るからである。

琉球にしても、臺灣にしてもそれ〴〵氣候の具體的説明資料は澤山あるが、ズット飛んで印度に移る。嘗て法學士飯島龜太郎氏の印度雜感と云ふ講演を聞いたが、其の中に、次の様な話があつた。

三月上旬、ツチコリンに船が着いて、汽車に乗りました。所が其の暑さは、實に筆紙にも盡し難い有様。同行者は三人でありましたが、何れも平素は随分おしやべりであるのに、此の時は話をする勇氣のある者が無い。皆ボンヤリして仕舞ひました。それも其の筈。其の時吹いて来た風は、日本で言へば、火事場から吹いて来る様な風でありました。阿弗利加の埃及を旅行した方は經

験して居られませうが、丁度サハラ沙漠から来る様な風が吹いて居りました。其の理由はと云へば、貿易風の起る前、三、四箇月は雨が一滴も降らないからであります。さうして元來砂地であつて、耕作物も綿の外には無いと云ふ様な處であります。其の砂地を熱風が通つて汽車の窓にあたるのですから、苦しい譯であります。或日の午前のことでありましたが、私は自分の持つて居る懐中時計を見よ、として、ポケットから出しましたが、暑くなつてゐて殆んど持てない位でありました。實に想像が出来ない程の暑さでありました。畢竟斯様な現象は、雨季が遠ざかつて、早ばかり続く時に起るのであります。

極暑の時、カルカッタの気温は先づ百十度であるが、嘗て百十六度まで昇つたことがあります。それ故旅行をするにも、五、六、七月の極暑の頃には、其の準備に餘程の注意がいらいます。停車場には、中がブリキで、其の外を皮で包んだ氷の函や、氷嚢を賣つて居りますから、用心深い人は、其れを携帯して、乗車し、暑さの爲に眩暈する様な場合に、氷で冷やさなければなりません。暑い處で三十

時間以上も汽車に乗つて居ると、時には霍亂して氣絶する様なこともあります。仍つて鐵道局では、それ等に對する設備として、車中に電氣仕掛の扇風機を取付け、始終風を起す様にして居ります。併し前申した通り、火事場から來る様な熱風が、汽車を襲ふのでありますから、其の風を一度冷やしてから、車中に入れる設備をして居ります。即ち、窓の外側に日本の英産の様な窓掛が懸けてあります。其の窓掛には汽車の進行中、絶えず水を雨の様に落すことにしてありますから、外部の熱風が一度水に冷やされてから、車中に這入る譯でありません。

南米秘露を視察した人の話によると、秘露の或地方には滅多に雨の降らない處がある。併しアンデスの雪解けの水が廻つて來るから、綿などを耕作して居るが、其の農夫の住宅を見ると、中には全く屋根の無い家がある。之は滅多に雨が降らないから、屋根の必要がないので、此の地方では平均七年に一度しか雨が降らないと云ふのである。

南隣の智利は南北に細長い國であるから、土地の南北によつて、雨量に非常な相違がある。其の南部は世界に有名な多雨地の一つで、一年に十三箇月雨が降る。と云ふ諺もあると云ふことであるが、北部は全く雨が降らない。爲に地表は一面の沙漠となり、其の地下に多量の硝石が埋藏せられて居るのである。其の硝石の積出し港として有名なイキケの如きも無雨地帯に在るから、飲料水は市の東南約二十七里、海拔三千五百五十餘尺に位せるピカと云ふ土地から、鐵管で送水して居ると云ふことであり、アントフワガスタ港では延長七十四里の鐵管を敷いて、遙に北方を流れるロア川の上流から飲料水を送つて居ると云ふことである。

以上の様な材料は、地理書と銘を打つた書物よりも、寧ろ旅行談、旅行記の類に多く出て居るものであるが、根氣よく集めると、随分澤山集め



得るものである。兎に角具體的材料を以て氣候を説けば、大人にも児童にも各地の氣候状態の特徴が分り易いものである。併し話が餘り長くなるから、此の項は之で擱筆して、次には必ずしも數量に關係のないものに就いての具體化に移ることにしよう。

### 一、形を備へないもの、具體化

**國際關係の親疎** 地理教材の中には、數量を以て表はすことも出来ず、又チャンと纏つた形を備へてゐない爲に、直觀化することも出来ないものが少くない。其の著しいもの、一つとして、先づ國際關係のことを述べよう。出来得るならば、日本と諸外國との外交の近況を説きたいのであるが、外交上の事には秘密を守らなければならぬことが多いものであるから、外務省の重要な地位に居る人以外には、知り得

ないものが多く、外交史専門の人が、始終研究を續けてゐても、二十年、三十年、五十年の後になつて、漸く往時の外交關係が明瞭になることが少くないと云ふ性質のものである。嚴密に考へると外交關係の真相は、或る時機に達する迄は分らないものが多いのである。随つて地理教授を説く人が、能く國際關係の現状とか、外交の近況を紹介することに注意しなければならぬ。」と言ふのであるが、外務の當局に居る人や、外交史専門の人などが聞けば、盲蛇で、實に大膽なことを言ふものだ。」と笑はれることであらう。

斯様に考へると、地理で國際關係を説くと言ふのは、實は大袈裟なのであつて、精々國際關係の親疎を香はせる位なもの。それも多くは最近の材料が得られないから、近代の歴史的材料を以て、御茶を濁すに過ぎないのである。所が御茶を濁すことも出来ぬ人が少くないから、地

理教授を説く人が、外交の近況を説け。」とか、國際關係の近況を紹介せよ。」とか云ふ聲を大にして、注意を促すのである。近來我が國に於て「國民外交」と云ふ様な叫びが高くなつて居るが、由來日本が大切な時機に長らく鎖國主義を嚴守してゐたことのある爲か、從來一般の國民は外交方面には無頓着で、一向趣味を持つてゐなかつた様に思はれる。然るに今や日本は世界に於ける五大強國の一に伍して、其の一舉一動も注意して觀察される地位に進んで居るのであるから、いつまでも外交方面に無頓着では居られなくなつて來て居る。それには小學校に於ける地理教授に於て専門の人から見れば、香だけの御茶濁しに過ぎない。」と笑はれる程度のもので、已むを得ないが、外交方面に注意を拂ふ國民を養成する第一歩として、國際關係の親疎位は、外國地理教授の際に説く様にしたいと思ふ。

所が、其の親疎も、抽象的な發表、記述では諒解し難いものであるから、然る可き材料を以て、具體的に説かなければならない譯になる。茲に日米關係を其の一例にするが、日米間に於ける近來の外交問題を見ると、様々の重要事件がある様に思はれる。併し其の柄でない吾々が、新聞や雜誌で其の香を嗅いで居るだけの智識で、彼是の論議をするのは、如何にも大膽であり、身の程知らずの沙汰であり、又肯綮に當る筈もないから、此の方面の事は茲には全く差控へ、日常見聞せる事實を擧げて、日米關係の密接なことを香はせるに止める。

昨大正十二年九月一日關東地方に於ける大震、大火のことが傳はると、世界の各國は熱烈な同情を我が國に寄せ、競うて之が救濟の策を講じた。其の好意に對して、我が國民は永久に感謝の意を表さなければならぬ。就中白熱的同情を寄せて、救濟に必要な物資を無限に送

る可し。」との電報を本國に送つたのは本邦駐劄米國大使ウヅツ氏であつた。此の電報によつて、米國に於ては官民老若、都鄙の別なく、白熱以上の同情を我が國に寄せ、急遽救済に要する金品を寄贈し、輸送に次ぐに輸送を以てした上、逸早く救護團を派遣して、救助事業に従事せしめた。其の友情は我が國民が永久に忘れることの出来ないものである。又最初我が大震災を米國に報じ、爾來數日不眠不休で通信に當り、各國各地からの呼號に對してたゞの一度も回答を缺かさず、非常の際にも禮讓を忘れずして、通信の終句に必ず「今回は之で御免を願ふ。」と打電せられた盤城無線電信局長米村嘉一郎氏を「世界の歴史に永久記憶せらる可き日本の英雄」と賞讃し、且五百弗の感謝金を贈呈したのも米國の某新聞社である。或は震災後、横濱及び東京に於て、米國救護團の活動を援助し、其の便宜を圖る上に於て、あらゆる努力を惜まなかつ

た森島大尉の功勞を本國陸軍省に報告し、記念品贈呈の手續をしたのも米國のマッコイ少將である。

次に大正十一年の我が對外貿易を見ると、輸出に於ても、輸入に於ても、我が國第一の取引國は米國で、隣邦支那との貿易額の二倍以上である（輸出入共に）。随つて兩國間の交通も頻繁で、彼我の大汽船が絶えず來往して居り、殆んど便船ある毎に、彼の國の觀光客が多數入國して居る。少しく前に溯れば、彼我の學者が相互に來往して交換教授を實行したこともあり、又日露戦争の際、日本海々戦があつて、大勢が既に定まつたと見るや、講和を勸告し、仲裁の勞を執つたのも時の米國大統領ルーズベルト氏であり、其の談判地も米國のポーツマスであつた。更に溯れば、我が國が教育、郵便、租税、外交等の制度を立てる上について、多大の指導を受けたのも米國人であり、北海道の開拓方針を立てたのも、普通體

操、西洋音楽、獨逸流の醫術、電話、蓄音機などを始めて我が國に輸入したのも米人である。或は幕末に於ける下關海峽に於ける長州藩の外國船艦砲撃が本となつて、米、佛、蘭、英四國の聯合艦隊が下關を砲撃した際、我が國から出した償金を、米國は一旦受取りはしたが、後進國から受取つた血腥い償金を貯へるのを不祥事となし、明治五年岩倉大使の渡米を機として、其返還を議決し、七十八萬五千弗八十七仙の償金を返して仕舞つた。或は我が國が始めて和親條約を結び、通商條約を締結したのも、米國の勸誘があつた爲であるから、米國は我が開國の恩人である。今や我が國人十餘萬は、米領布哇に於て甘蔗の栽培に従事し、尙米國西海岸地方に在留せる數萬の邦人は、或は荒蕪地を開いて良田に化し、或は立派な蔬菜、果物を作つて、之を米人の庖厨に供給して居る。若し此の供給が無いならば、米國の御臺所は忽ち恐慌を起すのである。い

つも主として勞働者間から排日の聲が高まるのであるが、心ある彼の國人は其のいはれ無きことを知悉して居るから、排日の一方には親日策を講じて居る頼もしい人もあるのである。

以上の例は、或は外交の衝に當り、或は外交を専門に調査研究して居る人の目には、「的外れの御茶濁し」としか映じないであらうが、相手が小學兒童であり、外交方面にも趣味を持つ國民養成法の第一歩として、國際關係の親疎を窺はせる初歩の一例としたものである。

**國民氣質** 「十人寄れば氣は十色」と言ふ。十六億餘と稱せられる世界の人類を細かに見れば、形態上十六億餘通りになつて居るが如く、其の氣質も亦十六億餘通りになつて居ると言ふのが最も正しい譯である。併し十六億餘の人類を、數種の人種に分類し、數多の民族に分けて、其の共通の特徴を談じ得る様に、或は一國家を組織し、或は一民族を

形成して居る國民、民族にも共通の特徴とも謂ふ可き性質が認められる場合もある。それ故に古來地理教授を説く人が、國民の氣質や、民族の性質にも注意を怠つてはならないと論ずるのである。獨逸人は勤儉であり、又學術の研究、應用に長じて居るとか、佛蘭西人が自由平等を尊び、美術思想に長じて居るとか、米國人が自由を重んじ、自治を尙び、自立自營の念に富んで居るとか云ふ類のことで、殆んど萬人の共通に認めて居る特徴と謂ふ可きものがある。其の特徴の中には、美點、長所と見る可きものもあり、又缺點、短所と言ふ可きものもあるが、是等の特徴を知ることが、或は國々の施設、經營を理解する材料となる場合もあり、又我が國民の修養、反省の資料となることもあるのであるから、無論地理教授上注意す可きものに相違ない。併し現今の人文地理學がさう云ふ方面にまで深く研究を進めてゐないから、世界の各國民、各民族に

就いて、悉く其の特徴を示し得る程度に達してゐないのは、誠に遺憾な點で、通例地理書や教科書に其の國民性までを記されて居る國は、極少數である。併し世界に重きをなして居る國民や、特種の関係ある民族の特徴、殊に其の美點を紹介することに努めたいと思ふ。

所で、其の特徴も抽象的の説明では、印象の淺いものであるから、之を生徒に傳へる場合には具體的の事實を擧げて理解せしめる様に注意しなければならぬ。例へば獨逸人が毎日朝早くから晝食まで眞面目に働き、晝食後一時間晝寢をして心身の疲勞を休み、更に晩まで根氣よく働いて、普通の國民の二倍の仕事をする所から、獨逸人は一日を二日にして働く。」と賞讃せられて居る様な事柄を擧げると、兒童は如何にも獨逸人は根氣強く働く國民であると云ふことを悟る。又靴下一足でも粗末にはせず、穴があれば、つぎをする、又あけば、又つくろふと云

ふ譯で、全く役に立たなくなるまで之を棄てない。外國からの留學に對しても下宿屋の婆様が同様にして穿かせるから、獨逸に留學二年の間、靴下は三足でつとまつたと云ふ話を聞いたことがある。かう云ふ様な具體的の事實を擧げないと、生徒は獨逸人の儉約なことを痛切には感じない。青島戦争後獨逸の捕虜を收容してゐた習志野、久留米大分などの收容所では、獨逸兵の儉約なことを證明す可き實例を澤山目撃することが出来たのである。又歐洲戦争以前、獨逸には二十有餘の大學があつたことだけでも、其の學術研究熱の盛んであつた一端を察し得るが、柏林の郊外に皇室研究所を設け、理化學に精通せる一流の大家を詰めさせて、それ／＼の研究をさせ、常に國內の發明家、冶金家、農業家、工業家等の提出する産業上の問題を解決せしめると云ふ組織を立てゝゐたことも、學術を重んじてゐた一證となる。或は工業家が常

に學者の研究を恃みとし、自己の營業に關係ある學者を工場に聘して特殊の研究をさせる外、高給を拂つて知名の大學教授を顧問とし、學術上或新發見をすれば、直ちに自己の工場で實地に適用す可き契約を結んでゐると云ふ様なことも、如何に學術の研究應用の盛んな國であつたかの一端を察することが出来る。大戰前の獨逸は主として國民の勤儉と、學術の研究應用によつて、其の國勢を築き上げてゐたものであり、大戰後疲弊の極に達して居る獨逸の國民が、猶畏敬せられるのは、矢張り古來長く勤儉の美風と科學とによつて訓練せられた人間であるると云ふ點からである。

歐洲戦争の始まつた頃、匿名で書かれた「佛蘭西人」と云ふ論説を見たことがある。佛蘭西人を理解する上に大切な文字であると思つて、保存して置いた筈であるが、今其の原本を見出すことが出来ないから、記

憶をたどつて、其の要點を述べることにする。

佛蘭西人の感情は、遠心的で、膨脹性を備へて居る。即ち、之を内部に蓄積して居ることが出来ず、常に外部に向つて發散する。孤獨は彼等の堪へないことで、自己の感情が常に他人と結合し、調和を保つて居ることを必要とする。一人で感ずることも、樂むことも出来ない。自分の喜びは之を他人に分たなければ満足が出来ない。随つて自由、同情博愛と云ふ様な觀念が常に頭を支配して居る。一

又佛蘭西人は、陽氣を好む國民である。陽氣な笑を好む人間である。其の笑は心の底から發する笑で、其の一笑は平生の怨をも忘れしめる様な趣のあるもので、苦笑、嘲笑と云ふ様な性質の悪いものではない。獨逸人も、英吉利人も、伊太利人も、西班牙人も眞の笑手ではないが、佛蘭西人は笑の價値を解して眞に能く笑ふ人間である。世には彼等を唯快樂に没頭せんとする輕佻浮薄な國民と誤解して居る人もあるが、彼等は決して羅馬の二の舞を演ずる様な眞似はしない。唯如何なる場合にも、快樂を取ることが忘れず、苦痛を轉じて快

樂とする道を知つて居るのである。艱難に遭つても樂天的の本質を失はず、困難に遇つても意氣を沮喪しない。佛蘭西革命の時、明日をも知れぬ運命の囚人が、諸處の獄中で、歌を唄ひ、詩を詠じ、骨牌を弄んで、斷頭臺に上る間際まで樂んでゐたものであり、普佛戰爭の際、兵士はあらゆる艱苦を嘗めながら、猶悠然歌を唄ひながら籠城を續けて、其の防禦に當つてゐたのである。

普佛戰爭には戰敗の憂き目を見たが、之が爲に佛蘭西を弱いと見るのは誤りである。佛蘭西人の血管には、英雄崇拜と、イザと云へば命を的に懸けることを惜まない熱血が通うて居る。佛蘭西兵は主將に其の人を得さへすれば、非常に強くなる。嘗て普魯西に負けただけでも、時の運として少しも意氣の沮喪する様なことはなかつたのである。佛蘭西兵は服裝などには無頓着で、平時の外観などを氣に懸けない。戰時に於ける野戰の際、最も實用に適するものを採用し、行動の自由を妨げず、又泥まみれになつても、少しも遺憾のないものを着用する。英國や獨逸の軍人の華美な服裝に比較すれば、見劣りがするが、最も實用的な服裝である。茲に佛蘭西兵の強みが潜んで居る様に思はれ

る。  
近代の歴史を顧みれば、政治、文藝、美術、科學等何れの方面に於ても、佛蘭西の刺激を受けない國はない。確かに佛蘭西人は文明の一酵母である。之は彼等の誇りの一つであるが、其の基づく所は主として彼等が科學的智識に富み、殊に算數の智識に長じて居る所に在る。近代の醫術に大影響を及ぼした微菌學の率先者パスツール、血清を發見したルー、生理學の荊棘を開いたベルナール、新爆發藥の發明者たるベルトロ、指紋法の發明者ベルチ、コンラデームの發見者キューリー、博士及び同夫人、ウラニウムの發見者ベクレル、天文學の大家アラゴ、ペリエーなどを始めとして、世界的に名聲を博して居る大科學者は實に多い。其の外近來流行の盛んになつた自動車、飛行機、潛航艇の如きも、其の完成の功は、佛蘭西人に歸せなければならぬのであつて、佛蘭西は科學研究國として、世界に重きを爲して居るのである。

以上は國民性紹介の一、二の例に過ぎないが、英吉利人にも誇りとす可き長所があり、米國人にも畏敬す可き美點がある。それ等の長所、美

點を傳へるのは、單に海外諸國の國民の性向氣質を理解せしめるのみならず、一方に於ては内に我が國民自身を省み、彼れの長を採つて我が短を補ふ反省修養の一助にもなるのであるから、世界主要の國々の國民性の美點、長所を具體的事實を以て紹介する様に心懸けたいと思ふ。  
日本人の美點、長所は、主として修身科や歴史科で鼓吹して居るのである。其缺點、短所を擧げて内に自らを慎み、警めると云ふことは、今日までの教育法には少い様に思はれる。我が國民が皇室尊崇の念に富み君國の爲には身も家も顧みないとか、或は武勇の氣象が強くて、イザと云ふ場合に死を恐れないとか、寛仁大度の美風を備へ、犠牲的精神が強く、祖先崇拜の念に富んで居るとか云ふ様な美點は、永久に失ふ可からざる長所として鼓吹する必要があると同時に、諸外國の國民性と比較して明かに我が短所を悟り、之を自ら警める機會を與へることも必要



である。それには地理科が最も便利な學科であると思ふ。由來、日本は島國で、多くの人間が狭い天地に齟齬して、一向外部との接觸が無かつた爲に、外に對しては人に接する道を知らず、内に對しては己れを高くして威張り合ふ様な傾向がある。近來外國との接觸が頻繁になるのにつれて、多少緩和された様に思はれるが、矢張り昔からの島國根性が根柢深く宿つて居る。外國人が日本人を眺めた場合に美點ばかりを見て呉れるものならば結構であるが、さうは行かない。缺點も短所も見られるのである。若し其の缺點を痛切に認めた場合には、日本人に對して惡評を下すのは、無理のないことである。随つて吾々は諸外國の國民性を知ると同時に、諸外國人が如何に日本人を見て居るかと思ふ。外人の目に映ずる日本人を知る必要がある。將來は、諸外國人の見たる日本人觀を念入りに研究しなければならぬと思ふ。

# 欠

# 欠

働者に就いては論議せぬ。中流以上の人を見なさい。皆堂々たる人物ばかりである。中流以下の者を見て、私の言葉を考へると、大間違ひである。日本人などは國の保護がなかつたら憐なものであらう。

喧嘩腰の熱が高まり過ぎて、自ら自分を保護しつゝ、自己の發展を期する意氣を誇りとして居るのであるが、同時に民國の弱點をさらけだして居る。併し殖民力の強いことは確かに支那人が世界第一である。

大體に於て、日本人は己惚れが強い様である。何處に己惚れる所があるか。體格は小さく、忍耐力は無く、學問の方面にした所で、私の親類の子供の話に、日本の大學で學んで來たが、講義は皆歐米の言葉を使つて、西洋の仲繼ぎをするだけである。學費が多くかゝるから、直接西洋に行つた方が好い。」と曰つてゐた。日本人は西洋人の所論を崇拜するに拘はらず、支那人に對しては、西洋よりも、日本の方を一段高く見よと言ふから可笑しくなる。君等は二口目は、文明の機械々々と言ふが、其の内には吾々の工夫した道具に及ばぬものも少くない様である。吾等が此の滿蒙の平原を耕して、收穫するのは、皆數千年

來研究した獨得の方法である。文明なんかは私等には必要を認めぬ。罵倒が大分烈しくなつて來た爲に、「己惚れが強過ぎる。」と言ふ方にも己惚れが見えて居る。併し日本の大學に關する批評が單純な罵倒であるならば、聞流しにしてよいが、若しさうでないとする、こちらも餘程奮發しなければならぬことになる。

次に日本の震災に就いてであるが、其の後始末はすぐつくであらう。損害が百億圓に上らうと、其れは限りのあることであるから大問題ではない。其れよりも大切なのは、人心の荒廢を如何にすれば緊張させ得るかと云ふことである。最近日本人の生活振りは頗るウハツ調子に流れてゐた。今度の震災寄附金に就いても、日本人のやり口には、少々驚かされた。九月十六日の滿日紙で見ると、平生私等と同等の交際をしてゐる某々氏等で、多いのが三百圓、五百圓とある。それも數人に過ぎない。五十圓、百圓中には十圓以下のもあつた。私は一、二萬圓は出してよいと思つてゐたが、私の友人連中が千圓でよいと言ふから、先づ千圓として置いた。あの頃の新聞を注意して見ると、私の

國人でも五百圓、千圓、二千圓、三千圓、一萬圓出した者がある。五百圓と云ふのは六十何人もあつた、日本人は三圓、五圓、十圓と云ふ口ばかりではないか。しかも堂々たる家を構へてゐて、晝食などは毎日ホテルで、一回數圓の洋食を喰ふ連中ではないか。自動車を持ち、大きな家に住んでゐて、應接室から費齋まで、贅澤の限りを盡してゐて、金庫には金の無い連中ばかりではないか。私等

は一日の食費に六十錢もあれば、家族三人に充分である。尙申したいのは、此の頃寄附の申込が非常に多くなつたことである。私の家には平均すると毎日一人位は來る。私は年の始めに、收入の中から、義務と云うて、寄附金を豫算に計上して居る。私の家で十圓、二十圓の寄附は何でもないことであるが、實にウルサイ程來る。此の外に民國の寄附申込が年に二、三回は來る。之は以前からの知人で、奉天や天津に居る役人又は軍人が遊びに來て持つて行くのであるが、千圓、二千圓と纏まつた金を持つて行く。かう云ふ時には自動車に乗せて停車場まで見送つてやるが、之も一種の税と思つて居る。日本人には、十五圓も寄附すれば、大抵満足して行くので有難いが、元來

しないでもよい筈のものであるから、快くは感じない。私は赤十字社とか愛國何々會とか云ふものならば、先方の申す通り、必ず寄附するが、其の他のものは成る可く御免を蒙りたいものである。

日本人に見えを張りながら餘計な金を持たず、随つてイヤと言ふ場合にも金を出し過ぎる弱點のある所を見付けて痛棒を加へて居るのである。日本人に支那人同様の生活をしろ。毎日六十錢の食費で三人暮らせと言ふのは、無理であるが、身分相當の生活をし、又分相應に出す可き金を出す餘裕のある國民になりたいものである。

前に引用した支那人の話は、唯、外人の見たる日本人觀の一例に過ぎないが、かう云ふものにも注意して、反省す可き點があるならば、充分に反省して行く様にしなければならぬ。此の支那人の話は、喧嘩腰の見えて居るものであり、日頃の不平を洩らしてやらうと云ふ態度のも

のであるから、自分の長所を振翳して相手の弱點を手厳しく攻撃して居るのである。随つて日本人の短所が分ると同時に、支那人が個人としては金持であり、又殖民力の強い人間であり、國家の背景を恃みとせず、個々獨立に防禦もすれば、活動もすると云ふ長所も分かり、尙又國家としては薄弱な點のあることにも氣がつくのである。

さて、地理教授に就いて、書いて見たいと思ふことは、まだ外にも色々ある。併し餘り大冊になると、多くは嫌氣がさして終りまで讀まれなから、此の書物は之で擱筆する。

## 地理教授終

大正十三年四月八日印刷

大正十三年四月十二日發行

地 理 教 授  
不 許 複 製

定 價 金 貳 圓 八 拾 錢

著 作 者

東京市小石川區大塚仲町四十一番地  
北 垣 恭 次

發 行 者

東京市小石川區大塚仲町三十六番地  
芦 田 共 介

印 刷 者

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
根 本 力 三

發 行 所

東京市小石川區大塚仲町三六  
電話東京六一六八二番・電話小石川六〇五八番

蘆 田 書 店

取 次 所

東 京 六 合 館

大 阪 柳 原 書 店

東京 秀英會 印刷

本書と同著者

# 歴史教授

洋装美本全一冊 紙數五百二頁  
定價金貳圓八拾錢 郵稅拾貳錢

本書と姉妹篇たるべき書。二十年間苦心研究の書。小學校の歴史教授を眞意義に導く書。歴史教授改造の先驅をなす書。趣味津々卷を覆ふに暇なき書。

發行所 蘆田書店

2676  
93

終

